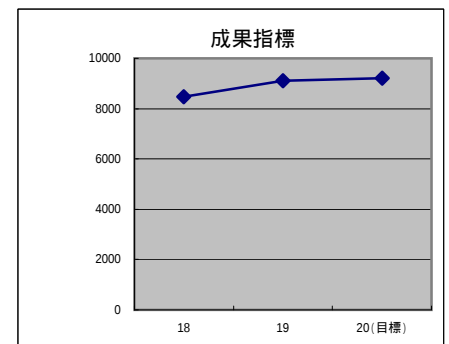
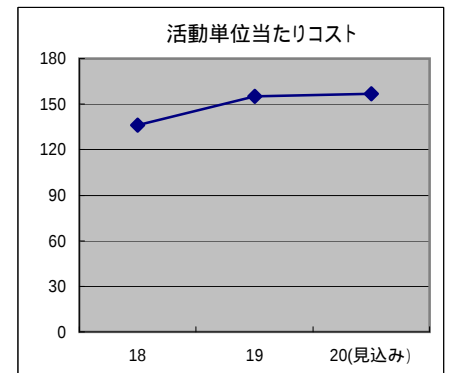


事務事業名		図書館管理運営事業		予算科目	会計	1	一般会計
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち		款	10	教育費
	施策(節)	3	生涯学習		項	5	社会教育費
	施策の方向	(3)	図書館活動の充実		目	9	図書館運営費
関連する計画等					事業	8	図書館総合運営
				作成部署	教育委員会事務局生涯学習室図書館課		
				連絡先	072 - 950 - 5501 内線		
事業の目的	対象(誰を・何を)						
	市民及び在勤在学者						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	より良い読書環境の整備充実を図る。						
	図書館では、下記のような業務を行っている。						
	資料の収集・整理・保存、資料の貸出、返却、配架、予約(リクエスト)、調査相談(レファレンス)、相互貸借、障害者サービス、おはなし会、手づくり会、新着案内他の発行、ビデオ上映会、読書講演会、団体貸出、学校図書館への援助、子ども文庫活動への援助などを行っている。						
根拠法令等		社会教育法、図書館法					
事業開始時期		☒ 昭和 ☐ 平成 28 年 月開始 ☐ 明確にはわからない 終了年度 平成 年度					
事業開始時からの状況変化		府立のブックステーションとして図書館業務を開始し、現在では6館1ブックステーションで年間約90万冊を貸出しています。					
市民や議会の要望		インターネットを活用したサービスの展開への要望が寄せられている。					
実施手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委託先		☐ 外郭団体委託 名称 ☐ 民間委託		委託内容			

区 分		18年度	19年度	20年度
		(実績)	(実績)	(見込み)
事業費【1】 (千円)		21,974	22,042	22,130
人件費【2】 (千円)		96,990	117,800	120,568
職員数	正規職員	3.40 人	5.90 人	6.04 人
	再任用職員	3.90 人	4.10 人	4.30 人
	嘱託職員	21.45 人	21.30 人	21.78 人
	臨時職員	4.65 人	4.50 人	4.50 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		118,964	139,842	142,698
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	118,964	139,842	142,698
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
年間個人貸出冊数		874,800	900,336	910,000
活動単位当たりコスト(【A】 / 【B】)		136 円	155 円	157 円
市民1人当たりコスト(【A】 / 人口)		988 円	1,165 円	1,190 円



成果指標	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	市民一人当たりのサービス効果(円)	式 ((購入図書平均単価×貸出冊数) - 図書館費) ÷ 人口	市民一人当たり金額に換算してどれくらいのサービスが提供できたか	目標 実績	8,000	8,651	達成率(%)
					8,482	9,108	105.3%
	貸出サービスの指標(円)	式 購入図書平均単価×貸出冊数 ÷ 図書館費 × 100	図書館に投入された費用に対してどれくらいのサービスがなされたか	目標 実績	528	590	達成率(%)
					579	647	109.7%

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	図書館法の趣旨にのっとり市が設置し管理運営している
		○									

視点	分析のためのチェック点			分析・評価の説明		
	はい	いいえ	該当なし			
妥当性	市民ニーズが高い			☒	☐	☐
	市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない			☒	☐	☐
	社会情勢の変化に対応している			☒	☐	☐
	他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない			☒	☐	☐
	国・府の事業と重複していない			☒	☐	☐
	事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい			☒	☐	☐
	緊急性が認められる			☐	☐	☒
効率性	単位コストが適切である(経年、他市比較など)			☒	☐	☐
	受益者負担の割合は適当である			☐	☐	☒
	人員を削減する余地がない			☒	☐	☐
	事業費を削減する余地がない			☒	☐	☐
	簡略化できる方法や手段がない			☒	☐	☐
	市の他事業と重複していない			☒	☐	☐
	民間活力(民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど)の活用について検討の余地がない			☒	☐	☐
有効性	上位の施策(目的)が明確である			☒	☐	☐
	上位の施策(目的)への貢献度が高い事業である			☒	☐	☐
	成果を向上させる余地がない			☒	☐	☐
	市民の視点にたってサービスが提供されている			☒	☐	☐
協働性	事業の企画、立案に市民が参加している			☒	☐	☐
	事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている			☒	☐	☐
	事業の実施について積極的に市民の意見を反映している			☒	☐	☐
	事業の実施に市民の参加、協力が得られている			☒	☐	☐
達成度	成果指標の目標値は適正である			☒	☐	☐
	成果指標の実績値は目標値以上である			☒	☐	☐
	成果指標は前年度より向上している			☒	☐	☐

担当 部局 評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☒ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	羽曳野市の図書館業務は、貸出等においては一定レベルにあると考えられるが、今後もなお一層の経費抑制とサービスの向上を図る。	
	今後に向けて(取組方針、具体的な改善改革案など) 生涯学習の拠点として、組織体制の確立とサービスの充実強化・職員の資質向上を図り、IT化への対応を推進していく。	